

平成31年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）（学校番号 s 5 1）

目指す学校像	南高生の誇り10箇条を座右の銘とし、人格の完成を目指し、豊かな情操を培い、探求心旺盛な自主自立の精神に満ちた心身共に健康な民主的社會人の育成を期する。
重点目標	1 主体的に学習できる生徒の育成と進路実績の一層の向上を図る。 2 活力と特色ある教育活動を推進する。 3 コミュニティ・スクール先進校として地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標		年 度 評 価（2月1日現在）			実 施 日 令 和 2 年 2 月 1 0 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	個のニーズに応じた選択科目を充実させた週34単位、年8回の土曜授業の導入から3年目の完成年度を迎え、生徒の確かな学力を育成するために、以下の検討・実践を行う。 ①新学習指導要領に対応した授業改善について具体的な方策を探り実践する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・「何のために学ぶのか」という目的意識の醸成 ・「総合的な探究の時間」の実践 ・整備されたICT環境の有効活用 ・新教育課程の作成 ②生徒の進路実現のために的確な情報を提供し、進路実現を向上させる。 ・新大学入試への対応 ・英検、GTECの全員受験の継続	授業改善による確かな学力の育成	・研究授業、授業研修会の実施 ・ICT教育の実践 ・AL実践の推進 ・「総合的な探究の時間」における「南高Action for SDGs」の実践 ・生徒アンケートの実施 ・教育課程委員会による教育課程の検討と作成	・公開授業を通して、授業改善研修会を年3回以上実施。 ・ICT環境活用方法の検討と実践。 ・ALの手法を用いた授業の実践。 ・「総合的な探究の時間」の実践による学びに対する主体性の伸長。 ・授業満足度の向上。 ・新教育課程の完成と仮提出の準備。	・授業公開週間の翌週に教科別の研修会を実施（年2回）するとともに、外部講師を招いての研修会を実施（年1回）し、探究学習の実施に向け検討を行った。 ・ICT環境やALの手法を活用した授業実践について先進校視察を行い、各教科で情報共有を行った。 ・「総合的な探究の時間」において「南高Action for SDGs」を実践し、グローバルな視点で提示された課題について各自で解決策を模索する力を涵養した。 ・生徒アンケートを実施、授業満足度については8.2%増加した。 ・目指す学校像、教育目標の実現に向けた新教育課程の素案を企画委員会で策定し、現在教育課程委員会で編成作業中である。	B	・新学習指導要領に対応した「主体的・対話的で深い学びの推進」に向け、普通教室の設備を充実するとともに、教材の共有化など授業力向上を目指す ・「総合的な探究」の取組をどのように新学習指導要領に即したカリキュラムにしていくなかについて検討する。 ・新教育課程の仮提出（5月提出）に向け、遅くとも4月上旬には完成を目指す。
		進路希望実現に向けた計画的な取組	・進学補習の充実 ・進路ガイダンスや模擬試験、英語資格試験の参加率向上 ・模試分析会の活用 ・キャリア意識啓発 ・新大学入試への対応	・補習数と参加生徒数の増加。 ・保護者対象や各年次における進路ガイダンスの計画・実施。英検準2級以上の合格率9割を保持する。 ・模擬試験受験率の向上及び分析会の活用。 ・多角的なキャリア教育の計画と実施。具体的な進路意識の啓発。 ・学習支援クラウドサービスの効果的な活用。	・3年次の夏季補習の講座数は165講座（昨年度比4講座増）実施した。 ・進路ガイダンスについては予定通り実施するとともに、HPや通知を通じて最新の教育情報を提供した。また、1・2年次で英検とGTECを全員受験。英検準2級以上合格率は最終的に94%（3年次生）となった。 ・模試はほぼ100%の生徒が受験し、実施毎に教員向けの分析会を実施、生徒に適切な事後指導を行った。 ・1年次で年度当初の校外HRを実施し早期から進路意識を啓発するとともに学習支援クラウドサービス(classi)も継続導入した。	A	・進路指導、検定試験全員受験などの取組については次年度も継続していく。 ・継続性を持って大学入学共通テストに対応するため、年次主体から進路指導部主体の進路指導体制の構築を目指す。
2	生徒の人格形成を進め、キャリア意識を醸成させるため、今年度も以下の体験的な教育活動を実践する。 ①学校行事の充実と安全な実施 ②「3つの感動体験」の充実 ③スポーツを科学する生徒の育成	学校行事の充実と安全確保	・生徒の参画意識を啓発し、主体性を引き出す学校行事の実施 ・学校行事における安全確保の強化	・生徒主体の体育祭、文化祭の実施 ・登下校時の安全指導の徹底およびPTAと連携した行事の安全強化	・人工芝グラウンドを使用した体育祭も定着し大きな事故なく無事に終了するとともに、文化祭においては生徒会主体で閉祭式の見直しなどを行い、主体的な運営を行った。 ・年5回の登校指導週間やPTAと連携した文化祭警備を実施、安全指導を徹底した。	A	・生徒会各種委員会を中心に生徒主体の学校行事の運営を継続していく。 ・安心安全な学校生活を送ることができるよう組織体制を充実させる。
		多角的に人間形成を進める特色ある教育活動	・3つの感動体験のほか体験型教育活動の実施、参加生徒数の増加 ・高大連携によるキャリア教育の推進 ・科学的アプローチによる課題解決能力の向上	・体験型教育活動に積極的に参加し主体的に学ぶ生徒の増加。 ・高大連携事業の計画と実施による進学意識の啓発。 ・データをもとに課題を発見し、コミュニケーションを図り、課題の解決方法を考える生徒の育成。	・社会探検工房は1名、ジュニアインタープリター3名参加生徒が増加、市のイノベーションプログラムにも6名の生徒が参加し、主体的に体験型学習に取り組んだ。 ・産業能率大学の教授による社会探検工房プレゼン指導、1年次の大学模擬授業を実施し、進路意識を啓発した。 ・STBLの取組に運動部だけではなく、文化部や無所属の生徒も参加させ、幅広いデータを得ることができた。	B	・体験型教育活動のさらなる充実に向け内容を検討するとともに、個から全体へ取組を拡大するための方策を検討していく。 ・STBLのデータの有効活用について市と連携し、部活動においても自調自考できる生徒の育成を目指す。
3	コミュニティ・スクール先進校として、関係諸機関と連携するとともに、学校の組織力を高めることで、地域に開かれた信頼される学校となるように以下の実践を行う。 ①保護者、地域に開かれた学校づくり ・グラウンドの地域開放や地域連携事業の充実 ・家庭との連携強化 ②企画委員会を中心とした風通しの良い学校運営 ・校務全体に対する職員の共通理解の深化 ・学校課題の共通理解と、解決に向けた組織的な対応	保護者、地域に開かれた学校づくり	・近隣小中学校、辻地区、さいたま市及び南区との連携推進 ・広報活動の活性化 ・地域、保護者への迅速な情報発信	・地域連携事業等の活性化による「コミュニティリーダー」の育成 ・授業公開や学校説明会の充実。 ・HPを活用した細やかな発信とメール配信を活用した家庭との連携強化。	・書道、吹奏楽、音楽、卓球、サッカー、陶芸、地学、生物などの部活動が地域交流事業を実施した。 ・授業公開、部活動見学、個別相談会など教務部を中心に学校全体で取り組んだ。 ・HPを随時更新し、南高の今や国の教育動向など多岐に渡った情報提供を行った。	A	・本校の特色である地域交流事業をCS先進校の立場からさらに充実させ、コミュニティリーダーの育成を推進していく。 ・新入試の新たな動きを中心に情報発信を強化していく。
		企画委員会を中心とした風通しの良い学校運営	・業務の可視化や年度総括の共有による校務全体に対する共通理解の深化 ・企画委員会を中心とした学校課題の共通理解と、解決に向けた組織的な対応	・年度総括の活用方法の検討と効果的な活用および業務の可視化による校務全体に対する共通理解の深化。 ・企画委員会を中心とした学校課題の共通理解と、解決に向けた組織的な課題の検討。	・他教科への意見を集約する場を設け、新教育課程編成の資料とした。分掌の年度総括の方法については引き続き検討していく。 朝の職員朝会での連絡事項をサイボウズで一括入力することにより、朝会のスリム化及び、連絡事項の共有化を実現した。 ・企画委員会で学校課題を共有し、解決に向けて組織的に対応した。	B	・業務の継続化に向けさらに具体的な方策を検討していく。 ・学校課題を明確にし、解決に向けて組織的に対応していく。

学校関係者評価	実施日 令和2年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けて、学習指導要領の要件に沿った絶対的な学習時間の確保に努めてほしい。 新学習指導要領では、急速なICT進展を踏まえ検討されてきたものであるため、教育活動の充実のためにも、ICT環境の整備に必要な予算について市と調整をしてほしい。 短期的な効果を狙った改革・改善は長期的には効果を弱めかねない。一過性のものに留めることなく、持続的に刷新が可能な形で教育課程を深化させてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づき編成された教育課程をより実効的なものにするために、各教科で3か年を見通した学習指導計画（シラバスなど）による視覚化にも取り組んでほしい。 進路結果は生徒自身とその保護者にとって最も関心が高く、在学中の成果として厳しい評価がなされる部分かと思うが、教職員の努力により着実に成果が上がっていると評価できる。今後とも家庭と連携し希望進路の実現に向け進路指導を展開してもらいたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 今後も「やらされる」のではなく生徒が主体的に「自らやる」学校行事を展開してほしい。そのためにも学習指導とのバランスのよい計画を作成してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な体験型教育活動を通じて自分の将来を考える端緒とし、将来一人一人の生徒が地域社会の有意な構成員として、思考力・洞察力・想像力を発揮できるように総合的な探究の時間の有効活用について検討を進めてほしい。 スポーツ科学の知見による運動部活動等の展開の充実を図ってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 地理的条件を活かし、重点目標の達成のために今後も開かれた学校づくりの一層の充実を望む。そのためにも地域の拠点としての施設整備の計画的な整備計画を進めてほしい。 地域自治会との交流の機会も積極的に設けてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題の共有と組織的な課題解決には、エビデンスに基づくコミュニケーションが大切で、その仕組みの創出のために、大学や研究機関との連携を検討が必要だが、教職員の負担が過度とならないよう留意してほしい。 学校の活性化のためにも、年代や勤務経験バランスを重視した教員配置がのぞまれる。

